

東日本大震災 全日本民医連支援ニュース

現地の仲間・住民と連携し「民医連ここにおい」の心意気でともに力を合わせて頑張りましょう！

NO. 34 2011.4.13 17:30 発 全日本民医連対策本部

Mail : taisaku-honbu@min-iren.gr.jp

～余震、断水、原発に負けず～小名浜生協病院への看護師支援 軌道に！

4月11日、福島県を震源とする震度6強の地震が発生しました。小名浜生協病院は震災後1か月経過し、ようやく断水が回復したと喜んでいたら、この余震で現在また断水状態となりました。通常の診療は続けているので、タンクの貯水もほぼ空になっているとの事でした(13日午前段階)。市や県に水の供給をかけあっているようですが、余震続きで行政側も対応しかねているとのことです。

余震・断水・原発という悪条件の中ですが、4月6日から先陣を切って、東京から看護師支援が入り、11日から本格的な支援ダイヤが関東地協で組まれています。

余震の影響などを考慮し、支援者の安全確保の観点から月曜日～土曜日を1クールとした支援ダイヤとし、行き帰りは全日本民医連からジャンボタクシーで送迎することとしました。なお、支援者用のアパートは断水を免れているとのことです。

◆福島への今後の支援について＝検討状況＝◆

先週末、藤末会長・小西副会長らが現地入りしました。今後、福島への支援は①原発の地域から福島や郡山へ避難している人たちへ現地事業所を中心とした支援、②小名浜地域への支援、③避難所や自宅で困難を抱える高齢者への支援、が必要だと考えられます。

原発事故に対する住民の不安は非常に強いです。正確な情報を伝えていくことや、今後の健康上・経済上の保障について運動をつくっていくことが重要です。

原発の避難圏域に大規模な精神病院があり、入院していた患者が地域に「放り出された」状況になっています。地元の大学病院などとも相談しながら、精神科支援も検討中です。

東日本大震災の影響による経腸栄養剤（医薬品）の供給不足に伴う医療扶助特別基準の設定について（4/11付け事務連絡）

震災の影響で経腸栄養剤が不足しています。在宅療養患者の方が経腸栄養剤のかわりに、薬事法上、医薬品としての承認を得ていない、いわゆる医療食としての扱いを受けている類似製品を使用せざるを得なくなった場合、一定の要件を満たせば医療支援給付が認められることになりました。限定された内容ではありますが、要求運動の成果です。<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000018s3u.html>

<お知らせ>

☆薬剤師支援に入るみなさんへ：白衣をご持参下さい。

☆4/11に開催された 特別シンポ 原発・核兵器私たちの未来（日本原水協主催。パネリスト：吉井英勝さん／日本共産党衆議院議員、野口邦和さん／日本大学専任講師、三浦広志さん／南相馬在住、農民連）の動画がHPにアップされています。300人の参加で大盛況でした。（<http://www.antiatom.org/Gpress/?p=3349>）

支援者到達（13日現在）：1949人（医師305、薬剤師114、看護師562、技術系379、事務他589）

本日の支援者数は（移動含む）184人。延べ数は9083人となりました！

支援募金到達：1億5400万円を超えました！ ☆義捐金の使い途について、今月理事会で方針提起する予定です。

◇全日本民医連支援ニュースの活用をお願いします◇

☆状況は刻々と変わります。各県連におかれましては、各事業所にリアルタイムに転送をお願いします。